

美しい市川市の未来を壁画に

市は平成26年に市制施行80周年を迎えます。これを記念した取り組みとして、何もなく暗い市役所本庁舎の西側の通路を使って、「市川市の未来」をテーマに、市立第七中学校美術部員のみなさんに壁画を描いてもらいました。

8月1日～9日にかけて描かれた壁画は、全長15

m、高さ2.5mにも及ぶ作品で、市川市の未来像を「大地」「空」「海」の3つで表現し、そこに生徒の一人ひとりの将来の夢がちりばめられています。

80周年を迎えるまちであり続けることを思いながら、壁画をご覧ください。



▲暗かった通路が華やかに



▲下絵をもとに壁画を描き始める



▲下地の白いペンキを塗る



▶下絵を持つ部長と壁画リーダー

すぎやま みゆ 杉山 心祐さん (壁画リーダー)

すずき あづか 鈴木 杏実歌さん (部長)

ないとう ほるな 内藤 遥菜さん (壁画リーダー)

なかじま じゅりあ 中島 朱梨亜さん (壁画リーダー)



▲完成後、壁画の前で集合写真撮影



▲最後にレタリングをする

▲完成目前

▲徐々に壁画が出来始める

インタビュー

- インタビュー回答者
 ★鈴木杏実歌さん(部長)
 ★中島朱梨亜さん(壁画リーダー)
 ★杉山心祐さん(壁画リーダー)
 ★内藤遥菜さん(壁画リーダー)

なぜ「大地」「海」「空」をテーマに決めましたか

市は、自然が豊かで住みやすい自慢の街です。未来にもこの美しい景色が残っていて欲しいなどの願いを込めて絵を描くことにしました。壁が3面あったので、「大地」「海」「空」の3つをテーマに決めました。

◆壁画を描いてみた感想は

今までペンキを使って描いたことがなかったし、ローラーやハケなどを使う経験も少なかったので不安でしたが、徐々に慣れて、最後は楽しく描くことができました。団結力も強まりとてもいい経験ができたと思います。

思い通りにならないところもありましたが、自分達の絵の世界が広がったと思います。

♥苦労したことは

リーダーとして苦労したのは、最初、部員全員になかなか指示が通らないことがあったことでした。周り全体をよく見て行動することの難しさを痛感しました。

絵を描くうえでは、ローラーやハケを用途によってうまく使いわけ、上手に塗ることができました。また、レタリングでは、パソコンを使って印刷した字を壁に写すときに、「止め」「ハネ」などを忠実に再現するのがとても苦労しました。

◆今後の活動でやりたいことはありますか

今回、初めてペンキを使い描きましたが、今後は、他の未体験の手法を使って絵を描いてみたいです。また、いろいろな公募にも積極的に応募していきたいです。そして、ワクワクとらわれない自分ならではの表現を研究していきたいと思っています。

テーマ「大地」について

市の花であるバラと、特産品の梨を中心として、市川の伝統と文化の継承、そして未来も変わらずに平和で暮らしやすい街であってほしいという気持ちを表現しています。色とりどりのバラや、みずみずしさあふれる梨を丁寧に描き、市民一人一人が実りある生活を送れるようにという願いが込められています。

テーマ「海」について

市民のみなさんが快適な暮らしを送り、希望が持てるようになってほしいという願いから描かれています。現在建設中の(仮称)妙典橋と虹が描かれ、街をつなぐ橋が未来への希望となるように、という思いが込められています。

テーマ「海」について

未来に美しい海や干潟が残っているという想像と想いから描かれた作品です。かつて行徳で見られた広大な干潟が、ほぼ見られなくなったことから、この絵を見た方々が「自然を守ろう」という気持ちを持ち、多くの自然が残る素敵な街であり続けてほしいという願いが込められています。

